

2017（平成29）年度

事業計画書

自 2017（平成29）年4月 1日
至 2018（平成30）年3月31日

公益社団法人 国際演劇協会日本センター

2017（平成29）年度 事業計画書

作成のポイント

- 1) 舞台芸術の国際交流に関わる公益目的事業を着実に推進する。
- 2) 主催事業及び受託事業について、適正な運営管理費の確保をはかる。
- 3) 事務局経費は、基本的に会費、寄附金、及び委託事業の運営管理費等でまかなえるように収入の増加をはかり、経営基盤の強化に努める。
- 4) 新法人への移行後、第2期（平成26年4月～平成27年3月）の収支決算は黒字であったが、黒字の要因となった事業が第3期以降は継続されず、他に実施した事業の助成金申請が不採択になったことなどの影響で、第3期は一転して赤字決算となった。第4期については、赤字幅はやや縮小することが見込まれるものの、再度赤字となることが予想される。このままの事業展開を継続すると正味財産の過度の減少が危惧されるため、今後は経費支出を最小限に抑え、単年度収支バランスが改善するように事業計画を立案することを必要である。
- 5) 前項の考え方にに基づき、平成29（2017）年度は緊急措置として経費を最小限に抑える緊縮予算とする（東京芸術祭については範囲限定的な受託事業であるので例外とする）。中期的には、平成30（2018）年度以降、アジアとの国際交流や東京オリンピック・パラリンピック関連事業の動向を見きわめた上で、可能な場合には事業の再拡大による収支の健全化をはかる。

以 上

【事業予定】（１）

公益事業

- 1 国際演劇年鑑（Theatre Yearbook）2018の刊行
 - （１） 日本語版（Theatre Abroad）及び英語版（Theatre in Japan）を発行
 - （２） 「紛争地域から生まれた演劇9」を開催（共催：東京芸術劇場〈予定〉）同年鑑の調査研究事業のひとつとして、リーディング上演の実施と戯曲集の刊行
- 2 『ハンナとハンナ』リーディング上演と難民をめぐるトーク
- 3 東京芸術祭（広報業務を受託）
- 4 「第4回高校生劇評グランプリ」（同事業は全日本社会貢献団体機構の助成を受けNPO 法人日本学校演劇教育会が主体となって来年度実施予定。当センターの関わり方は今後検討）
- 5 広報・コミュニケーション事業（１）
対外的広報・コミュニケーション、ウェブサイト運営、ITI ニュース、等
- 6 広報・コミュニケーション事業（２）
ITI 本部納付金、等

（参考）

平成 29 年度については、以下の事業は原則として実施を見合わせる。

- ・「この子たちの夏」
- ・情報交流・ネットワーク事業
世田谷 x ITI 共催レクチャーシリーズ 等

【事業予定】（２）

1 総会・理事会等

- （１） 総会 当センターのすべての正会員によって構成
- （２） 理事会 すべての理事によって構成し、業務執行の決定等、法令や定款で定められた職務を行う。
 - ① 代表理事（会長１名、副会長２名）
 - ② 業務執行理事（常務理事１名）
 - ③ 理事 理事会を構成し、職務を執行する
- （３） 事業委員会 事業実施に関して、その企画運営に関わる業務を統括し、理事会に対して責任を負う

2 理事会・総会等の開催予定

- （１） 理事会
 - 第１回 ５月開催予定 ２０１６年度事業報告・決算等の審議
 - 臨時理事会 ６月開催予定 新役員体制の討議・決定
 - 第２回 １０月開催予定 ２０１８年度実施事業の原案について
 - 第３回 （２０１８年）３月開催予定 ２０１８年度事業計画・収支予算等について
- （２） 総会
 - ６月開催予定
 - 役員改選（４月に選挙の告示、４～５月投票、５月開票、５月理事会で理事候補者を推薦）
 - ２０１６年度事業報告、収支決算を討議・承認
- （３） 事業委員会
 - ６月頃 ２０１７年度事業の実施に関し、必要な事項を審議する
 - １０月 上記の他、２０１８年度事業の企画立案に関し、必要な事項を審議する
 - その他、必要に応じて随時開催する

以 上